

日本動物実験代替法学会主催
国立医薬品食品衛生研究所後援

動物実験代替法の現状と OECD ガイドラインに関する
ワークショップ

プロシーディング

平成10年1月30日（金曜日）
10時～5時

国立医薬品食品衛生研究所 講堂

はじめに

本プロシーディングは平成10年1月30日に日本動物実験代替法学会主催、国立医薬品食品衛生研究所後援で国立医薬品食品衛生研究所で開催された動物実験代替法の現状とOECDガイドラインに関するワークショップでの発表をまとめたものである。

本ワークショップではガイドラインとして検討中の代替法について、それぞれの先生方に担当された代替法について詳細な方法とともに、それらの問題点についてまとめて下さるようお願いした。しかし、ガイドラインの作成の進行状況により、言及できる内容に差が生じたことを御理解いただきたい。また、当初、ワークショップ終了直後に作成する予定であったが、諸般の理由により遅れてしまい、講師の先生方及び参加者の皆様に迷惑をおかけしたことを深くお詫びする。なお、ワークショップ後、厚生科学研究班で検討してきた代替法を利用した眼刺激性評価に関するガイドラインの案がまとまったので、それについて付録に記載した。また、米国では抗原性評価のための local lymphnode assay や皮膚腐食性評価のための Corositox™ の妥当性を検討するための peer review を始めたことをお知らせしたい。

最後に、本ワークショップの開催に当たっては国立医薬品食品衛生研究所及び日本動物実験代替法学会の大きな協力を得たことを感謝したい。また、国立医薬品食品衛生研究所毒性部及び薬理部の方々、日本化粧品工業連合会所属の化粧品会社の皆様には多くの時間と労力を提供していただいた。合わせて感謝申し上げます。

平成10年9月

日本動物実験代替法学会プロジェクト委員会
板垣宏、大野泰雄、金子豊蔵、田中憲穂、二宮博義